

RA協議会第5回年次大会・B-2セッション  
(第7回JINSHA情報共有会)

# 研究の発展につながる評価とは～ 「責任ある研究評価・測定(Responsible Metrics)」とURAにできること～

日時： 2019年9月3日(火) 13:20-14:50  
場所： 電気通信大学 B棟202(2階)  
主催： 人文社会系URAネットワーク幹事校

(大阪大学、筑波大学、琉球大学、京都大学、早稲田大学、北海道大学、横浜国立大学)

# プログラム／Programme

13:20-13:30 趣旨説明／Introduction 佐々木結（京都大学 学術研究支援室）

13:30-13:50 基調講演 1 ／Key note speech 1

**Dr. Elizabeth Gadd** (ビデオ参加)

Research Policy Manager (Publications)  
Loughborough University, UK.

13:50-14:20 基調講演 2 ／Key note speech 2

**Dr. Simon Kerridge**

Director of Research Services,  
University of Kent, UK

14:20-14:50 コメント&ディスカッション／Comments and Discussion

川人よし恵氏（大阪大学 経営企画オフィス研究支援部門）

押海圭一氏（琉球大学 研究推進機構 研究企画室）

# 人文・社会科学系研究推進 フォーラム\*について

これまで、人社系研究推進に関するフォーラム、情報共有会など人社系研究推進にかかる各種イベントを共同で開催。なかでも、研究評価に関連したものは以下。

- 第3回人文・社会科学系研究推進フォーラム@琉球大学 | テーマ | 「地域と共に新しい“ジブン”力を創造する人社系研究の展開」2「キックオフミーティング！： [人社系研究の活かし方・伝え方・研究力の測り方を考えよう](#)」  
(2017/3/3)
- 第4回人文・社会科学系研究推進フォーラム@京都大学 | テーマ | 「人文・社会科学系研究の未来像を描く-[研究の発展につながる評価とは](#)-」  
(2018/3/16)
- 第6回JINSHA情報共有会@京都大学「[研究の発展につながる評価とは](#)-研究評価の未来を洞察する-

\*人文・社会科学系の研究にかかわる研究者とURA（大学・研究機関におけるリサーチ・アドミニストレーター）、事務系職員、行政機関・資金配分機関の関係者等がともに議論し、考え、行動することで、互いにエンカレッジしながら、より良い研究推進のあり方を模索するためのフォーラム。2014年に発足。現メンバーの所属大学は大阪大学、筑波大学、琉球大学、京都大学、早稲田大学、北海道大学、横浜国立大学

# 日本の研究評価の現状

- 今年度から運営費交付金の評価指標による再配分割合が10%（1000億円）に引き上げ。
- 若手研究者比率、教員一人当たり外部資金獲得実績、運営費交付金等コスト当たりトップ10%論文数などの数値指標（Metrics）による資金配分が日本でも現実のものに。

## 人社系研究にとっての課題


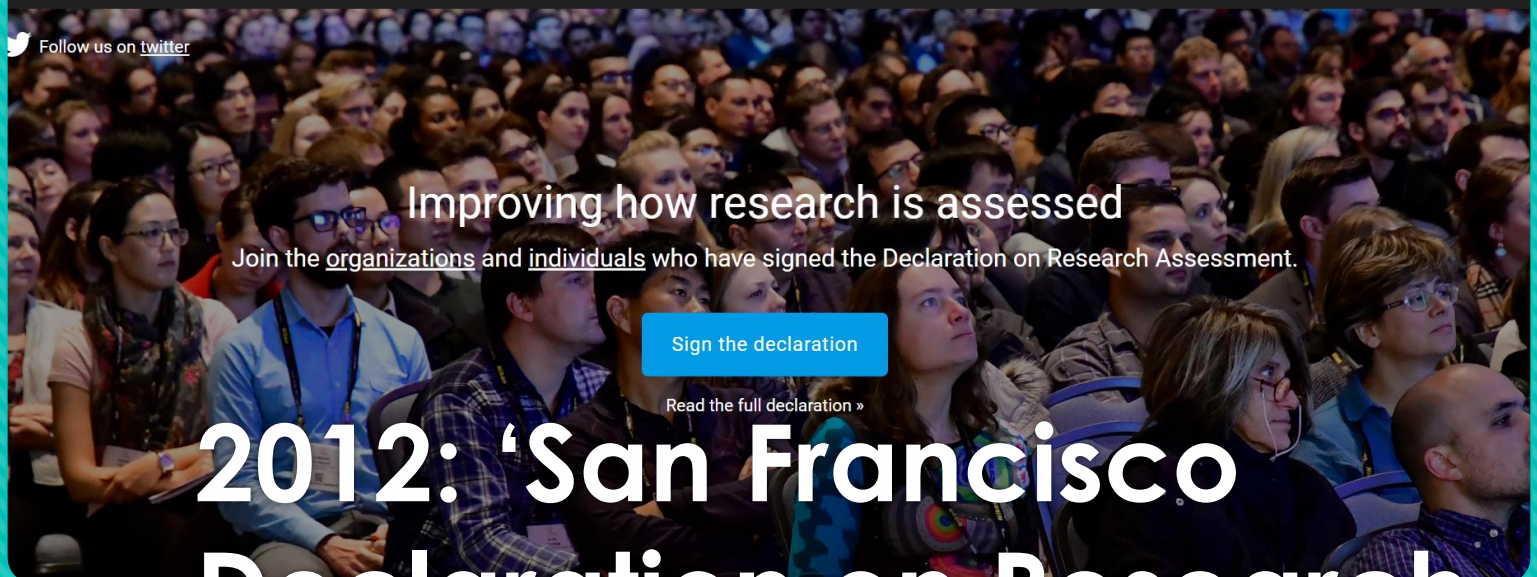


## 他分野にも共通の課題？

- 一方、欧米の研究評価「先進」地では、指標がもたらす弊害について議論が進む。
- 人社系研究にとって切実な指標問題、欧米の議論から学べることはないか。

# セッション企画の背景



 Follow us on [twitter](#)

Improving how research is assessed

Join the [organizations](#) and [individuals](#) who have signed the Declaration on Research Assessment.

[Sign the declaration](#)

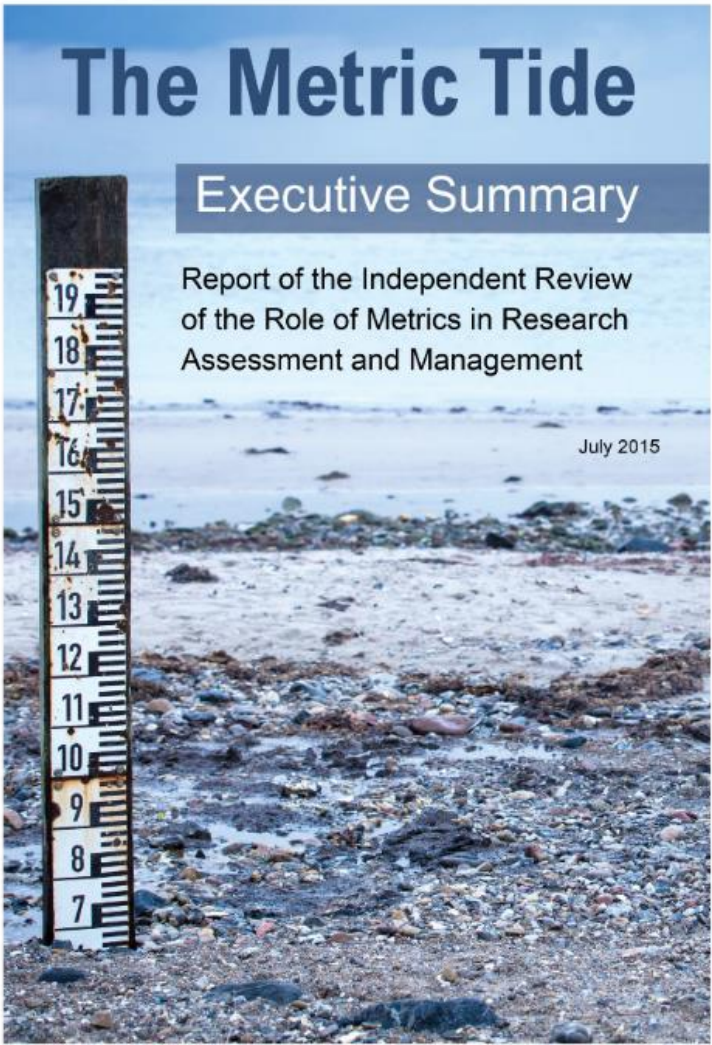
[Read the full declaration »](#)

# 2012: 'San Francisco Declaration on Research Assessment' (DORA)

- ・ 細胞生物学分野の学会、学会誌編集者、研究者が中心となり、ジャーナル・インパクト・ファクター（JIF）の限界を指摘。助成機関、学術機関、研究者など対象ごとに勧告をまとめているのが特徴。
- ・ 論文が掲載されている雑誌名ではなく、その論文の科学的内容を評価、また、多様な研究成果物の価値とインパクトを評価するよう勧告。
- ・ 近年、ウェルカムトラスト、PLOSなどの支援を受け、常勤スタッフを配置、運営委員会を強化。2019年7月にはケンブリッジ大学も署名し、話題となる。







# 2015: 'The Metric Tide' by HEFCE

- 英国高等教育財政審議会 (HEFCE)が発行したResearch Excellence Framework (REF)での評価指標(Metrics)利用を議論する報告書。ケント大のSimon Kerridgeが、研究マネジメント専門職団体 (ARMA) 代表として参加。
- REFのピアレビューとの比較から、指標の効用も認めつつ、それだけに依存することの危険性を指摘し、Responsible Metricsという概念を提唱。

# Dr. Elizabeth Gadd

Research Policy Manager (Publications)  
Loughborough University, UK.

- ラフバラ大学研究政策マネージャー（出版）。INORMSの研究評価ワーキンググループの議長、ARMA研究評価分科会の共同チャンピオン。
- Responsible Metrics（責任ある研究評価・査定）、著作権およびオープンアクセスの問題について、ブログ「The Bibliomagician」から積極的に発信、Lis-Bibliometricsフォーラムのチェア。
- ラフバラ大学は、The Metric Tide報告書刊行後の2017年、いち早く機関としてResponsible Metricsに賛同するポリシーを発表したことで話題になる。博士（著作権と学術コミュニケーション）。





# Dr. Simon Kerridge

Director of Research Services  
University of Kent, UK

- リサーチマネージャー歴25年のケント大学研究サービス部長。プレ、ポスト、評価、経営戦略全般をマネージ。前ARMA会長（現顧問グループメンバー）、NCURAグローバル担当特別委員会委員など歴任。
- 2015年にイングランド高等教育財政協議会（HEFCE）が刊行した独立報告書The Metric Tideの共著者であり、現在、INORMSのRAAAP（『専門職としてのリサーチアドミニストレーション』プロジェクト）タスクフォースリーダー。博士（Electronic Research Administration）。

